K-salon

Seoul 便り No.12（3月号）
2021,3,15（令和3年）
ソウル日本人学校　霜鳥　一幸

春休み韓国を歩くその③（4つの世界遺産）

３月１３日（土）午前中に幼稚部、小学部、中学部の卒業式、午後から修了式と離任式を終わらせるという強行日程で今年度の教育課程を修了しました。その２日後に、３年目の先生方が帰国され春季休業に入りました。何と次年度２０２１年度の始業は４月２１日（水）約１か月のお休みになりました。

そこで３月、またもや韓国新幹線 KTX に乗り、南部の世界遺産を訪ねました。韓国の世界遺産は２０２０年現在１４の項目が登録されています。

①宗廟（チョンミョウ）　②昌徳宮（チャンドックン）
③朝鮮王陵の王墓群　④南漢山城
⑤水原華城　⑥高敞、和順、江華の支石墓群跡
⑦百済歴史地区　⑧韓国の歴史的集落郡（河回と良洞）
⑨八萬大蔵経の納められた伽耶山海印寺
⑩慶州歴史地域　⑪石窟庵と仏国寺
⑫済州火山島と溶岩洞窟群　⑬山寺、韓国の山地僧院　⑭韓国の書院

（江南にある王陵墓「宣陵」）

このうちいくつかは、複合遺産？として、１項目にいくつもの箇所があります。最初は１４くらいならすぐにまわれるな、と思ったのですが、例えば③の朝鮮王陵の墓については、確認しただけでソウルの周辺に４１基あるようです。行ってみればただのお墓があるだけなのですが…（ちょっと失礼かな）４１基すべてを訪ねるとなると大変です。また、⑬の山寺についても７か所、⑭の書院についても９か所もあるのです。それも韓国国内のいたるところにあるため、すべてまわるとなると大変かなと感じてしまいます。

⑬山寺、韓国の山地僧院

①浮石寺（栄州市）　②大興寺（海南郡）　③鳳停寺（安東市）　④麻谷寺（公州市）
⑤通度寺（蔚山市）　⑥法住寺（報恩郡）　⑦仙岩寺（順天市）

⑭韓国の書院

①紹修書院（栄州市）　②玉山書院（慶州市）　③陶山書院（安東市）
④屏山書院（安東市）　⑤道東書院（大邱市達城郡）　⑥藍渓書院（咸陽郡）
⑦武城書院（井邑市）　⑧筆巖書院（長城郡）　⑨逐厳書院（論山市）

世界遺産①「筆巌書院」

さて、春季休業の旅です。まずはKTXで、南部の光州まで。ソウル市の隣、高揚市（コヤン市）にある幸信（ヘンシン）駅を７：２０発のKTXに乗車。目的地の光州松汀（クワンジュソンジョン）駅には９：３７到着しました。荷物をホテルに預けと思ったらすでに部屋が整っており、チャックインをして出発。

（世界遺産を示す碑がしっかりと！）

在来線の特急ITXに乗り20分弱、長城駅へ。そこから「筆巌書院」へと向かいました。韓国の「書院」とは、『朝鮮時代の教育と祭祀の機能を併せ持ったところで、人材育成や儒教的な村の秩序維持などの役割も担当した建築物」とガイドブックなどには書いてありました。タクシーで10分弱揺られ、郊外ののどかな風景の中「筆巌書院」に到着しました。本当に誰もいない農村のど真ん中。「帰りタクシーが必要になったら電話しなさい」と名刺を渡され、結局1時間後、電話をしてタクシーを呼んだのです。

（門をくぐって書院の中へ）

「筆巌書院」韓国語では「ピルアム　ソウウォン」と読みます。世界遺産認定の碑を横目に歩いていくと、そんなに大きくないのですが威厳のある門が現れました。門の上に掲げられている看板には「廊然楼」と書かれてありました。入場料を払うところもなく、解説のパンフレットがあるわわけでもなく、恐る恐る？門をくぐり中へ。ちょっとした中庭の向こう正面に「清節堂」と書かれた建物が。ここがこの書院の中心、お堂と書かれているので様々な教育の講義や活動が行われた場所と考えました。

（ピルアム ソウウォンの中心清節堂）

その右後ろには、修行者や講義を受けるための人たちが生活した部屋がありました。建物全体は、小学校の体育館より小さいと思われますが、儒教的な教育を行うための日本の江戸時代の「寺子屋」のような役割を果たしていたのではないかなと当時をしのびながら、見学をしました。塀に囲まれた敷地には、3月終わりということもあり梅の花が寒さに耐えながら芽吹いてもうすぐ来る春を待ちわびているようでした。

（梅が咲く生活の場）

世界遺産②「武城書院」

（同じように世界遺産のレリーフが）

タクシーで長城駅に戻り、予定ではこの後、世界遺産のコチャンコインドル（高敞支石墓群）を見に行こうと思っていたのですが、雨が強くなり、寒さもあり、行き方の情報もなかなか手に入らず、駅前のカフェでこのあとの予定を思案。結局、近くにあるもう一つの世界遺産の書院「武城書院」を見に行こうと予定を変更し、コインドルをあきらめたのです。

長城駅から ITX1076 号で 14 分北上して井邑駅へ。ここでもう一度コインドルの情報を確認しましたが、バスでは難しいという回答で、やはりタクシーで 30 分ほどの「武城書院」へ向かいました。ここもかなりのド田舎（失礼かもしれませんが本当に何もないような所）でこれはまたタクシー呼ぶの大変だなと思い、見学が終わるまで待っていてもらうことにしました。

（やはり門をくぐる構造は同じ）

ここ「武城書院」＝（韓国語「ムソン　ソウウォン」）も「筆巖書院」と同じような作りで、門をくぐると、少し庭があり、そこに続いて堂があり、その後ろに生活スペースがあるという感じです。拝観料を払うでもなく、どこからも自由に入れるのですが、逆にガイドブックがなかったり、ガイドさん自体もいなかったりで、もしかすると重要なところを見落としていたり、建物や書院の詳細を知らないままの見学となったりで、少しもったいない感じも受けました。

武城書院は、お堂に（お堂という言い方でいいのか疑問ですが…）そのまま武城の文字が書かれ、その後ろに生活のスペースとなる部分があるようでした。ただ、筆巖書院は、お堂（学習する場所）と生活するスペースの区切りがないのに対して、この武城書院は生活スペースにも門があり周りを塀で囲ってありました。いずれにしろ、機会を見つけて、韓国の書院について勉強を進めなくてはなりません。

（お堂には「武城書院」の文字が！）

（生活スペースにはも一つの塀で！）

世界遺産③「（海南）大興寺」

（山門とは逆側から散策開始！）

2 日目、7 項目ある世界遺産「山寺、韓国の山地僧院」の一つ、ソウルから一番遠い海南市の「大興寺」へと足を伸ばしました。まずは行き方です。滞在したホテルのある、光州（光州松汀）駅から SRT（韓国国鉄の子会社の新幹線）に乗り、一路「湖南線」の終点木浦「モッポ」へ。この木浦、日本統治時代にはかなりの日本人が住んでいて、今でもいくつかの日本家屋が残っている街です。

（南にあるからか？3/21 桜の花が…）

この木浦からバスに乗り約 1 時間海南市へと向かいました。バスの出発まで、ほんの少しですが、木浦の街を散策。バスは 11 時ちょうどの出発で、海南バスターミナルには 12 時過ぎに到着しました。ここからはタクシーに乗りさらに南下、約 20 分で海南大興寺「ヘナム テフンサ」に到着しました。バスではかなり手前で降ろされるのですが、タクシーはバス停を通り過ぎ、細い道を寺の入口まで山道を上って行ってくれました。例によって、帰りは電話をしなさいと名刺をもらい、タクシーを降りて、運転手の言った通りに歩き始めました。

ガイドブックには、百済時代からの古刹で、2018 年に世界遺産に登録されたと書いてありました。創建に関しては、3 つの説があるそうで、426 年とも 514 年とも言われているようです。寺の境内は、北院、南院、別院から構成されていました。北院には「大雄宝殿」と韓国の重要文化財「三層石塔」が有名です。（下の写真左が大雄宝殿、右が三層石塔）

南院には、千仏像を安置した「千仏殿」があり、下の写真左の門の横に建物がありそこを抜けると千仏殿がありました。**（下の写真は山懐に抱かれた大興寺南院）**

（南院の正面質素な門が威厳を感じます）

（左の門の少し右、赤と緑の千仏殿）

そして、この南院正面から右に視線を向け歩くと別院に至ります。ここには「大光明殿」「表忠祠」などの文化財があり、北院と同様ここにも三層石塔が鎮座していました。韓国の山寺についても何の知識もなく訪れたので、見てもそれが何なのか？どんな価値があるのか？よく分かりません。しかし、教師としてまず本物を見るこれが自分の哲学です。もちろん、このあとしっかりと勉強をしたいと思います。

世界遺産④「和順コインドル」（支石墓）

３日目の世界遺産の話に入る前に、ご当地の名物を少し紹介しておきます。かたい世界遺産より食い物でしょ！という方もたくさんおられると思うので…。

１日目の夕食はホテル近くのトッカルビ発祥の店へ。今では韓国全土で食べられている韓国風ハンバーグ「トッカルビ」もここが発祥の地。トッカルビ通りの真ん中、「松汀トッカルビ」さんで本場の味に舌鼓。本当においしくて最高の味でしたよ。食べ終わり、ケサン（計算）ジュセヨのあと、帰ろうとするとアイスとヤクルトのサービスがあり、うれしいものでした。

（テナガダコのビビンパ）（鴨肉の鍋ミルク風でした）

続いて２日目の夕飯。大興寺観光（海南郡）からバスでもどり、木浦で有名なテナガダコのビビンパをいただきました。これもおいしかったですよ。隣を見るとにょろにょろ動いているテナガダコを鍋で食べている韓国家族もいました。いずれも韓国では必ず無料でつくパンジャンと言われる小皿のおかずもたくさん並んでいました。

光州は鴨料理が有名で、３日目の昼は、鴨肉の鍋を頂きました。これもまた有名な光州駅前の鴨鍋通り。鴨の肉の鍋（オリタン）専門店の中でも有名な「ヨンオリタン」さんでアツアツの鴨肉の鍋（しゃぶしゃぶ）を頂いたのです。最高でしたよ。

さて、最終３日目は、コインドルへ。１日目は高敞コインドルへ行けなかったので、もう一つの和順コインドルへ行ってきました。ホテルをチャックアウトし、１日２本しか走っていない路線で最寄り駅「綾州」まで。各駅停車ムグンファ号の旅です。

10：30 発のチケットをゲットし、荷物をコインロッカーへ入れ、早めにホームに降りると何とそこへ新型の KTX が！これは写真を撮るしかない！こういうところ、韓国は自由です。ホームを駆け上がり、新型 KTX が入線した誰もいないホームへ。ピカピカの車体を撮りまくりでした。

本当にコインドルの旅に。時間通り光州松汀駅を出発したムグンファ号は、昔の日本の国鉄車両のような味わいがあります。田舎の駅にいくつか停まりながら、目的地「綾州」に定時に到着。４２分の鈍行の旅でした。ホームに降り立ったのは、自分と妻の二人だけ。トーマスに出てきそうな駅とホームに感激したのです。

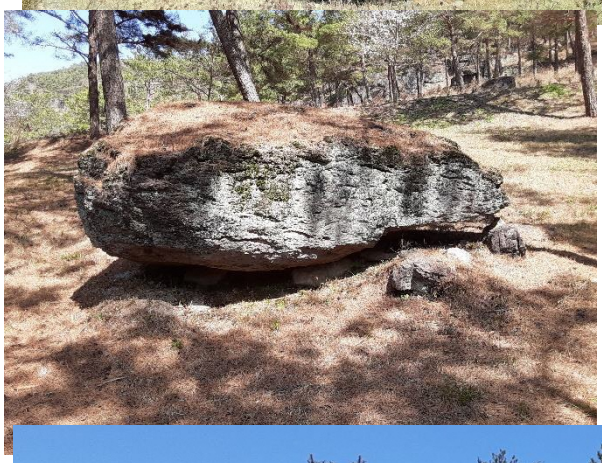
（いいですね！この田舎の駅のホーム）　（陸橋はなく線路を歩いて駅舎へ！）

駅前は閑散としており、タクシーなどなく、どーしよー。そこへ駅員さんが。１日数本しか停まらないのに駅員さんがいるんだ、なんて思いながら…。「タクシーはありませんか」と聞くと、苦笑いとともに「オプソヨ」この韓国語は分かります。「ないよ」それも「あるわけないじゃん」と言ったニュアンスで！

困っていると、もう一人の駅員さんが来て（あれ？『こんな駅（失礼ですよね）に二人もいるんだ』と思いながら…)、タクシーを呼んでもらえることに。「カムサハムニダ」。外で待っていると１０分後くらいに１台のタクシーが。

中を見ると、志村けんのいつもコントで出てきそうなご老人が。今にも韓国語で「あんだって？」とでも言いそうな雰囲気が出ています。大丈夫かなと思いながら地図アプリを出して道があっているのか確認しながらの乗車です。安全運転でチョースロー。どんどん次から次へと車が追い越していきます。それでも約１０分でコインドルのある公園として整備されている山の麓に到着。

入口にある案内所で聞いてみると、歩いて上って行くと３，４時間はかかるということでした。タクシーも通れるということを聞き、点在している巨石の支石墓で、タクシーから降りながら散策をしていきました。

ところで、コインドル（支石墓）とは何かというと、巨石墓のことです。新石器時代から初期鉄器時代にかけて世界各地で巨石を使ったお墓が作られました。日本でいうと明日香村の「石舞台古墳」を思い出してください。ただ、それは時代が新しいですが…。全世界で現在約６万の支石墓があるようですが、そのうち２万５千もが韓国にあるのだそうです。韓国では３つの支石墓群が合わさって世界遺産に登録されています。江華（島)、高敞、和順の３つですが、そのうちの今回和順コインドルを散策してきました。

和順コインドルは、道谷面考山里から春陽面大薪里を結ぶ峠の一帯に分布している支石墓。980 ほどの石材を調査したところ、そのうちの 135 基が支石墓と推定され、2000 年に世界遺産に登録されました。一緒に発見された木炭から年代を調べると、紀元前 3000 年前のものと推定され、同時に採石場も発見されているようです。